

2010 年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	商学部	身分	教授
氏名	林 正樹		
NAME	Masaki Hayashi		

1. 研究課題

(和文) 日本企業の「非社会性」の実態とその方法論に関する研究

(英文) A historical and theoretical analysis on the “non-social” activities of Japanese firms

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 200 字程度）

(研究課題) 企業は社会のなかに存在するのであり、企業と社会は共生関係にある。「企業の社会性」が存在するゆえんである。しかし、近年の日本企業を社会との関連で見ると、偽装食品、事故隠し、欠陥製品隠し、偽装請負、談合、贈賄、利益供与、不正な会計処理による利益操作、等々、いわゆる企業の不祥事が繰り返されるという深刻な問題が存在する。この問題を、日本企業の競争力とその要因の変遷を歴史的に分析することによって考察し解明するというのが研究課題である。

(分析視点) 企業の不祥事は「企業の社会性」の欠如から発生する。企業は社会のなかに存在し、企業と社会は共生関係にあるにもかかわらず、企業はなぜ社会性を欠いた行動をとるのであろうか。企業に社会性を回復させる可能性や条件は何か。

(研究方法) 研究方法は、(1) 日本企業の競争力要因を企業外要因と企業内要因に分けた上で、(2) (イ)企業ガバナンス、(ロ)経営戦略、(ハ)経営管理組織、(ニ)雇用・人事・報酬システムからなる経営システムのダイヤモンド・モデルを提起し、(1)と(2)について、戦後から今日までの日本企業の競争力を5つに時期区分してその変化を歴史的に考察することとした。

(研究の到達点) 第1に、企業内外の競争力要因が1990年を境にして大きく変化し、企業の競争力の強化が国の経済や国民の生活の向上をもたらしたというかつての「方程式」が崩れた原因を構造的に明らかにした。第2に、日本企業が「企業の非社会性」を克服するためには経営システムの改革が必要であるとの視点から、その実現条件と可能性について考察した。

(英文) A disgraceful affair of a modern corporation comes out from an absence of corporate social responsibility. Why have some Japanese companies been doing their business without social mind? On this matter, I have analyzed the factors of Japanese firms' competitiveness after the World War II into the outside and inside factors of a company, the former are political, economical, social and technological ones, the latter are corporate governance, corporate strategy, corporate organization and employment-compensational-HRM practices.

4. おもな発表論文等（予定を含む）

<p>【学術論文】（著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
<p>【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）</p> <p>林正樹、「戦後日本企業の競争力と日本的経営の行方」、日本比較経営学会東日本部会、 明治大学 2011年12月</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
<p>【図 書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）</p> <p>林正樹編著『現代日本企業の競争力ー日本的経営の行方ー』ミネルヴァ書房、2011年6月。 林正樹編著『現代企業の社会性ー理論と実態ー』中央大学出版部、2012年3月。</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>
<p>【その他】（知的財産権、ニュースリリース等）</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>